

平成二十七年 度 帝塚山 中学校 一次 A 入学 試験 問題 ・ 国 語 (その一)

受験番号

※答えはすべて解答用紙に書きなさい。 ※選んで答える問題は、記号で答えなさい。

※特にことわりのないかぎり、句読点やかきかっこはすべて字数にふくみます。

※設問の都合上、本文に一部省略があります。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

教育はおくれている。

日本だけではない。欧米においても、制度として学校教育が確立したのは、十九世紀はじめからで、なお二百年しかたっていない。¹日本は後進文化であったが、こと教育に関しては、ヨーロッパにさほど見劣りしない。明治五年には小学校が始まっている。寺子屋の伝統があったためであるが、決して大きくおくれていたわけではない。

ただ、教育内容に関しては、外国とはかなりはっきりした違いを見せた。

初等教育は、よみ・かき・さんじつ(そろばん)の技能を与えるのを主眼とした。この三つの学力をリテラシー(識字率)と呼び、文化の高い国ほどこの数字が高いとされた。わが国はいち早く、一〇〇パーセント近いリテラシーを達成した。世界には現在においても、リテラシーの低い国がいくつも存在する。

日本のリテラシーは、よみ・かき・そろばんと言われたが、はじめから、【a】中心であった。そろばんも教えられたが、さほどではなく、かく、についてはほとんどなすところがなかった。文字が書いても、文章を書く能力は問題にならなかった。

昭和のはじめころの小学校の教育は、よみ・かき・さんじつが中心であった。よみがいちばん重視され、読み方、の名で呼ばれた。それに対して、かき方というのは、毛筆で文字を書くことで、文章を書くのではない。文章を書くのは、書き方とは言わず、綴り方と呼ばれたが、ときに宿題が出る程度で、文章を書く授業はなかった。読解中心のリテラシーである。

戦後、²アメリカから教育視察団が来日して日本の学校教育の改善を助言した。日本の国語教育が、読み方ばかり教えているのにおどろいたのであろう。国語教育については、よみ・かき・はなし・きくの四技能を平行して育成することを強く求め、教育指導要領もその線によって作成された。

なんでもアメリカの真似をし、その言う通りにしてきた戦後の日本だが、この言語四技能平行学習については、あっさり無視した。読み方中心の国語教育がつづいて現在に至っている。国語ナシヨナリズムが発揮されたわけだが、それを自覚する日本人はすくない。

書く教育は、作文と名を変えたが、指導しないのは戦前と異なるところがほとんどない。はなし、きくに至ってはカゲも【b】もない。だいいちそんなことのできる先生がいなし、その時間も設けられていない。

中学校、高等学校の英語科の授業も、国語と同じくらい。『よみ』中心であったが、やはりアメリカの影響で、はなし・きく授業へ、ごくゆっくりとではあるが、移行している。³役に立つ英語を教えよ、という実業界などからの要求に動かされたところもある。

英語について、日本人は読むのはいくら読めるが、会話はまったくダメであると言われてきたが、その背後に、国語教育の音声無視が影をおとしているかもしれない。国語の教育は文字、文章中心で、話すことばの標準もはっきりしていない。

⁴文章は書けるが、まるで話のできない人間が、社会的に活躍できる。なにことも、大切に重要なことは文章になる。口先だけでは約束にもならない。

かつての小学校教員は師範学校で養成された。戦後制度が変わって、水準が下がったが、戦前の師範学校はかなり高度の教育技術を与えた。読み方もよく教育されたし、文字を書く書道も、全国统一された書体の手本によって教えられたから、全国の先生が同じようにきれいな字を書くことができた。黒板に書く字をみただけで、師範学校出の本科正教育であるかどうかがわかったくらいである。こどもたちは、そういう先生の書く文字を見て先生を尊敬したほどである。

そういう師範学校だったが、⁵話し方はまったく教えなかった。もちろん、腹式呼吸など知ることなく教壇に立つことになった。教室は静かでないこともあって、教師は大声を出すのが、発声については何も知らないから胸式発声で叫ぶことになる。これは軽く走っているくらいエネルギーを要することなどもろん知るべくもない。⁶それで悲劇になる。

新任教師が、一日、数時間、なれない大声を出していれば、疲労は小さくないが、本人はそんなことも知らずにただひたむきに授業する。疲れがたまって、秋になると、結核に侵される。大声で話すのが重労働であることをだれもしらないから、健康管理も

なく、病気になるのは是非もない。一年たらずで発病、数年で亡くなるいたましい犠牲がどれくらいあったかわからない。

のんきな世間は、楽な仕事をする教師がどうして病気になるのか、原因がわからない。だれが言い出したのかわからないが、教師は白墨の粉を吸うから結核になるのだという説がひとり歩きました。戦前のひところ、北海道から九州まで学校の先生は、白墨、チヨークの粉を吸って肺病になるという話が広まり、教師もそれを信じた。神経質な先生は、ハンカチで口をおおって予防？ したが、もちろん、何の役にも立たない。

それを啜^{わら}うことはできない。7 いまだって発声法を知らないために疾患^{しっかん}に苦しむ教員はなくなっていいない。

発声ができないくらいだから、話し方を心得ている先生はなくて当然である。みんな我流^{がいう}でしゃべっている。どうしたら、うまい話ができるかなどを考えるのは変わった教師である。たいていが、話せない先生である。生徒から「話せる先生」と言われるのは、生徒に甘い教師のことである。

先年、アメリカが、国會議員に、アジアの好きな国を訪問してほしい、費用は公費でまかなうということで希望を募^つった。日本と中国が有力だったが、結局、多くの議員が中国行きを希望した。その理由は、会話のおもしろさだったという。日本は、治安、衛生、料理などで中国よりまさるが、日本人の話はまるでおもしろくない。中国人は話がおもしろい、というのだったといわれる。それくらい、日本人は、みんな話し下手^{べた}である。そのことを日本人はだいたい知りもしないのである。8 だから話くらい、と考える。

日本人は耳がよくない。英語の会話がうまくないというのも、相手の言うことをよく聴^ききとることができないのである。とくに、はじめのところをしっかりとらえていないから、返事のしようもない。日本語の話では、はじめの部分はいわば【c】であって、本題はあとから出る。それになれて、冒頭^{ぼうとう}をきき流^{なが}すくせがついている。英語でも日本語と同じようにセンテンスの終わりの方には注意を向けても、はじめの二、三語がしっかりとえられていなくて相手の言うことがわからなくなって、返事のしようもなくなる。

オレオレ詐欺^{さき}、振り込め詐欺^{ふりこ}がいつまでもたってもなくなならない。やられるのは高齢者^{こうれいしや}に多いが、やはり、きき分ける力が充分^{じゅうぶん}ではないのである。電話の声にしても、子や孫のことばかどうか、きき分ける力がないのがいけない。耳バカ[※]だから、他人のつくり声にひっかかる。しっかりときき分けられる耳があれば、インチキを見破^{みやぶ}ることができることも多くなるだろう。

9 同じ詐欺でも、関西の被害^{ひがい}は首都圏^{しよとけん}よりケタ違いにすくないという。十分の一にも満たないそうだ。その原因は、やはり、耳の力の違いだとしてよいだろう。

東京周辺は戦後、地方から移住した人がすくなくないどころか、多くの人が、東京一世、東京二世である。こどものときにきき馴^なれたことばでないことばをつかって生活している。耳の力が充分でない。

それに引きかえ、関西は代々住んできた人の比率がずっと高い。その分だけ話し聞く能力も高いように想像される。

小学生の作文の全国コンクールがあると、ことに低学年においては、関西のこどもの作品がきわ立ってすぐれている。関東はそれに及ばない。関西の小学生の作文では、ことばが生きているのに、関東のこどもの作文は文学的で、10 生気に乏^{とほ}しいものが多い。関西の環境^{かんきやう}は、こどもの話し、聞く力をのばすはたらきをしていることを暗示^{あんし}している。ことばの教育においてもこういうことを考慮^{こうりよ}に入れた方がよいだろう。文字はそういう地域性を超越^{ちやうえつ}できるが、声のことばはより生活に近いのである。

11 国語の教育も文字、文章に偏^{かたよ}っていることをもっと反省した方がよいように思われる。わけもなく文字が音声よりすぐれているというのは、古くて歪^{ゆが}んだ考えである。

※リテラシー(識字率)……文字の読み書きができる割合。(外山滋比古『国語は好きですか』より)

※ナショナリズム……民族・国家に忠誠をつくす考え・思想。

※センテンス……文。

※バカ……「役に立たないこと」の意味。

1 ——— 1 「日本は後進文化であったが、こと教育に関しては、ヨーロッパにさほど見劣りしない」とありますが、その理由を次の文章の空らんの条件に合うように本文からぬき出して答えなさい。

【イ 十二字】に、すでに【ロ 十六字】のと、

十九世紀はじめに学校教育が確立したヨーロッパに大きくおくられているわけではないから。

平成二十七年 度 帝塚山 中 学 校 一 次 A 入 学 試 験 問 題 ・ 国 語 (その三)

2 【a】に入る語を本文からぬき出して答えなさい。

3 ——— 2 「アメリカから教育視察団が来日して日本の学校教育の改善を助言した」とありますが、その助言の内容として、最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア よみ・かき・さんじつの中で、文章を書く授業のなかった日本の国語教育に対して、もっと文章を書く授業を増やすようにというもの。

イ よみ・かき・さんじつの中で、よみ・かきを中心とする日本の国語教育に対して、はなし・きくの技能も追加するようにというもの。

ウ よみ・かき・さんじつの中で、よみを中心とする国語教育に対して、よみ・かき・はなし・きくの技能をまんべんなくやしながらというもの。

エ よみ・かき・さんじつの中で、さんじつはリテラシーとは関係のないものであるため、さんじつの授業をなくすようにというもの。

4 【b】に入る語をカタカナで答えなさい。

5 ——— 3 「役に立つ英語」とありますが、その説明として最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 実際に会話することもできる英語能力

イ 読み書きをすることが中心の英語能力

ウ 人の話を聞くことができる英語能力

エ 文章を書くことを重視する英語能力

6 ——— 4 「文章は書けるが、まるで話のできない人間が、社会的に活躍できる。なにごとくも、大切なことは文章になる。

口先だけでは約束にもならない」とありますが、ここで筆者が述べたい内容として最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 日本の社会では話がうますぎると、かえって不信感を与えてしまうために信用されない。

イ 日本の社会で社会的に活躍するためには、文章を上手に書く能力が絶対に必要である。

ウ 日本の社会で話す能力は必要ではなく、人が話す事をしっかりと聞かなければならない。

エ 日本の社会では文字が重要視されており、話し言葉はあまり大切だと考えられていない。

7 ——— 5 「話し方」とありますが、その説明として、最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 授業中に声を発するさいの発声方法

イ 相手の興味関心を引くような話し方

ウ 生徒に気に入られるように話す方法

エ 大声で話していても疲れない話し方

8 ——— 6 「それ」とありますが、その指示内容を説明した次の文章の空らん条件に合うように本文からぬき出して答えなさい。

教師が【A 四字】を知らないために【B 四字】で大声を出すこと。

9 ——— 7 「いまだって」がかかる言葉として、最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 発声法を知らない

イ 疾患に苦しむ

ウ 教員は

エ なくなっていない

平成二十七年 度 帝塚山 中学校 一次 A 入学 試験 問題 ・ 国 語 (その四)

10 ——— 8 「だから話くらい」とありますが、その後に省略されている内容として、最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア いつでもかんたんにできる
イ しなくても問題はないのだ
ウ できるが、話したくはない
エ たいしたこととも思わない

11 【c】に入る語として、最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア マクラ イ トリ ウ カゴ エ ゲタ

12 ——— 9 「耳の力」について、

〈Ⅰ〉「耳の力」を言いかえた語を本文より六字でぬき出し答えなさい。

〈Ⅱ〉首都圏において「耳の力」が弱いのはなぜだと筆者は考えていますか。六十字以内で説明しなさい。

13 ——— 10 「生气に乏しい」ありますが、その意味として、最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

- ア 生命力がなく投げやりである イ 弱気で何を考えているか分からない
ウ 生き生きとした感じが少ない エ 落ち込んでいて立ち直れない

14 ——— 11 「国語の教育も文字、文章に偏っていることをもっと反省した方がよいように思われる」とありますが、筆者がそのように述べる理由の説明として、本文の内容に合うものにはA、合わないものにはBと答えなさい。

- ア 昭和のはじめころの教育からずっと読み方の勉強しかさせてこなかったから。
イ 小学校の先生たちは上手な話ができないために、肺病になってしまったから。
ウ 英語でも相手の話をよく聴きとることができないため、会話もうまくないから。
エ 耳の力がまったくないので、日本人は簡単に振り込め詐欺にだまされてしまうから。
オ 声のことばより文字を重視している教育のため、伸ばされていない力があるから。

二 次 の 文 章 を 読 ん で 、 後 の 問 い に 答 え な さ い 。

確かにキャンプは楽しいものだった。初めてのテントに弟たちは大喜びで、その浮かれ具合が私にも伝染してきた。私はしばらくぶりに深呼吸したような気持ちになり、自然の空気を十二分に楽しんだ。

だが、事件は二日目の午前中に起こった。調子に乗って走りまわっていた弟が、思いがけない怪我をしてしまったのである。

そこにはキャンプ場の内と外を分けるために、自然石をコンクリートで固めた囲いが作られていた。大人の腰の高さ程度のもので、弟は曲がりくねったそれを線路に見たて、上を速足で歩く電車ごっこをして遊んでいた。ちょうど昼飯作りにかかっていた頃で、妹までが忙しく母の手伝いをしていて、弟が一人遊びに夢中になっているのは都合がよかった。

だが弟は、ふとした弾みに、その囲いから落ちた。足から落ちていればどうということとはなかったろうに、かなりのスピードで走っていたために、ぶざまな飛びこみのような形になってしまったのだ。

ゴツツ、という、ひどく嫌な音がした。その音を聞いた瞬間、家族は同時に顔を見合わせた。

慌てて両親が駆け寄ると、弟は泣いていなかった。地面の上に座って、自分に何が起こったかを一生懸命考えているかのよう
に、ぼんやりとしていた。

「大丈夫かっ」

父が声をかけると、弟はゆっくりとした動きで首を捻った。とろんとした目の中で、眼球が奇妙な動き方をしたかと思うと、そのまま前に突っ伏すように倒れた。

平成二十七年 度 帝塚山 中学校 一次 A 入学 試験 問題 ・ 国 語 (その五)

弟が落ちたあたりには、いくつもの石が土の中から顔を出していた。そのどれかに頭をぶつけてしまったのだ。両親はかわるがわる名前を呼んだが、弟は返事をしなかった。

「早くお医者者に連れて行かないと！」

事態の重大さを認識した母が絶叫した。

だが携帯電話もない時代のこと、救急車を呼ぶために電話のあるところまで行くことさえ、時間がかかる。弟を車に乗せて、直接病院に運んだ方が早かった。

キャンプ用品をすべてその場に放り出したまま、私たちは全員車に乗って、山を降りることにした。父は初め、私と妹はキャンプ場に残るように言ったが、なぜか途中から気持ちを変えて、一緒に来るように言った。子供だけを残していくのが心配だったのかもしれないし、もしかすると最悪の事態になるかもしれないと、心のどこかで予感したのかもしれない。

車が走り出してしばらくして、弟は完全に意識を失った。咽喉の奥から細いうめき声をあげ、母に抱かれてぐったりした。最悪の事態に発展しそうな可能性は十分にあった。

しーちゃんの時と同じように、私は弟に何もしてやれなかった。ただ苦しい様子を、心を掻きまられるような心持ちで眺めている他はなかったのだ。

(そうだ！これがあった)

私は首から下げていた小さな袋を取りだした。

けれど——私はもういっぺんさんをお願いしていた。不幸の中で死んでいった親友に、もう一度会えるようにと。

(2 しーちゃん、ごめん！)

私は心に浮かぶ親友の顔を無理やりに押しのけ、石の入った袋を握りしめて祈った。

(3 今までのお願いは取り消しますっ！そのかわり、弟を助けてください！)

くねくねと曲がりくねった山道を、車は這うように降りていった。二十分ほど走ったところで、弟は吐いた。母はそれを手で受けながら、ああ神様、と呟いた。妹はどうすることもできずただ泣くばかりだった。

(弟が助かりますように……弟が助かったら、もう何もいりません)

私は何度も、心の中で叫んだ。

ようやく車は山を降り、市内に入った。病院までは、大した時間はかからないはずだった。

「なんてこった！」

4 ハンドルを握っていた父が、絶望的な声で叫んだ。市内の幹線道路が、すさまじいまでに混雑していたのだ。

夏休みの週末という時期も、正午近くという時間もまずかった。しかも慣れない道なので、有効な抜け道も近道も、父は知らなかった。

今のようにカーナビや携帯電話があれば、取るべき手段はあっただろう。けれど三十年近い昔のこと、私たちのできることと言えば、身の細るような思いをしながら、車が進むのを祈るばかりだ。

「道を開けてくれえっ！子供が大変なんだ！」

父は車の窓から身を乗りだして何度も叫んだが、何の効果もなかった。まるで私たちに意地悪をしているかのように、周囲の車はのろのろと進み、すぐに止まってしまう。その間にも、弟は何度も嘔吐を繰り返していた。顔色が青白くなり、体が細かく震えていた。

(助けてください！弟を助けてください！)

石の袋を握りしめる私も、5 知らず知らずのうちに涙をこぼしていた。ここで役に立ってくれなければ、神様なんかいないも同じだと思った。

その時だ。

車内のバックミラーの中に、渋滞して止まっている車の間を縫うようにして、一台の白バイが近づいてくるのが見えた。それはあたかも、私たちのピンチを知って助けに来てくれたように見えた。

「父さん、白バイのお巡りさんだよ！」

私が叫ぶと、父は慌てて車のドアを開け、白バイ警官に手を振った。警官はすぐに切迫した父の様子に気づき、静かなエンジン音を響かせながら、私たちの車に近づいてきた。

平成二十七年 度 帝塚山 中学校 一次 A 入学 試験 問題 ・ 国 語 (その六)

「どうしたんですか」

白バイ警官は、まだ若い青年のようだった。黒いサングラスをかけていたので顔はよく見えなかったが、語り口調は力強く、頼り甲斐のありそうな人に思えた。

父が事態を話すと白バイ警官は、すぐに深々とうなずいた。

「頭を打っているのなら、大きい病院の方がいいでしょう。ここから五、六分のところに、脳外科のある救急病院があります。そこからまで私が先導します」

そう言うと、白バイは突然にサイレンを鳴らし始めた。

「急病人を搬送します。道を開けてください。ご協力をお願いします」

警官は白バイについたマイクを使って、周囲の車に叫んだ。それまでも道を開けてくれなかった車が、(a)端に寄りはじめた。センターラインがくつきりと見え、一筋の道が出現した。白バイはその道の上を、私たちの車の先導をして走った。そして、まるで海を割ったという聖者のように、次々と車を端に寄らせて道を作った。

その姿は、まさしくヒーローだった。なるほど、しーちゃんが憧れるのも、よくわかる。

やがて大きな病院が見えてきた。救急搬送口の前に、白衣を着た医者と看護婦がストレッチャーを用意して待ち構えている。白バイ警官が、無線で連絡してくれたのだ。

車をその前に止めると、すぐさま弟は病院の中に運び込まれていった。両親と妹は、それについて駆け込んでいった。私も後に続こうとしたが、ふと気づいて白バイ警官の方に向き直り、深々と頭を下げた。弟が助かるかどうかはわからなかったが、少なくともこの警官のおかげで、事態が好転したのは確かだった。

警官は白バイにまたがったまま、私を(b)見ていた。そしてやがて、ニッコリ笑ってこう言ったのだ。

「大丈夫だよ、うっちゃん」

声こそ違うが、その口調を忘れるはずがない。私は

 を疑い、次の瞬間には

 を疑った。

白バイ警官の前歯は、きれいに半分ほど折れていたのだ。

「きつと治るよ。いっぺんさんが助けてくれる」

白バイ警官はそう言いながら、サングラスをはずした。

その顔は私の知っている顔ではなかった。だが、私が知っているあの顔が、十歳で死ぬことなく無事に成長していたとしたら、たどり着いたはずの顔のように思えた。

「……しーちゃん……なにかい？」

私の言葉に白バイ警官は、

 人懐っこい笑みを浮かべた。

「まさか、そんな」

私は思わずうつむき、自分の頬を抓った。鈍い痛みが確かに伝わり、これは現実だと思い直して顔をあげた。

私は(c)掌を差し出してみた。警官は手袋の拳でそれを叩くと、同じように掌を差し出した。

 私は胸がいっぱいになる

のを感じながら、その掌めがけて拳を振り下ろした。

拳は、ただ空を切った。手袋の掌に当たる瞬間、警官の姿は音もなく消えたからだ。

弟は頭蓋骨にヒビが入り、脳に血の塊ができていた。だが迅速な治療のおかげで、命に関わる事態にはならずにすんだ。二ヶ月ほど入院し、その後は後遺症もなく無事に回復したのだ。

この時の話が家族の間で語り草になり、何度も繰り返し聞かされたのが影響したのか、成人した今、弟は白バイ警官になっている。私は野球選手にはならなかったが、しーちゃんのように病に倒れる子供を一人でも減らしたくて、何年かの回り道を経て小児科の医師になった。今では、多忙ながら充実した毎日を送っている。

時間が過ぎた今、あの白バイ警官は私の見間違いだったような気もしている。あの人はごく普通の警官で、しーちゃんの成長した姿のように思えたのは、混乱していた私の錯覚だったのかもしれない。

けれど、もし、あの人がしーちゃんだったとしたら——いっぺんさんは、欲深な私たちの願いを、すべて叶えてくれたのではないだろうか……と思う。

早く大人になって、白バイ警官になりたいという、しーちゃんの夢。

平成二十七年度 帝塚山中学校 一次A入学試験問題・国語 (その七)

死んだしーちゃんにもう一度会いたいという私の願いと、弟を助けて欲しいという、もう一つの願い。

私たちがあんまり強欲こうよくすぎて、神様も（d）困り果ててしまったのだろう。だから、きっと特別サービスというわけでもないだろうが、それらの願いを「いっぺんに」叶えてくれたのかもしれない。だとしたら、¹⁰ 神様も粹いきなことをなさる。

その考えに納得しかけながら、私は、けれど……と思わないでもなかった。

もしそうだとしたら、しーちゃんの病気が治らなかつたのはなぜだろう。あの日約束したように、しーちゃんは白バイ警官になる夢よりも、病気が治るようにお願いしたはずだ。¹¹ 一番肝心な願いを聞き入れてくれないなんて、ひどいじゃないかと思った。

でも、それはきっと違う——今のしーちゃんの家族を見れば、すぐにわかることだ。

しーちゃんのお父さんは、彼の死後、まるで別人のように穏やかおだな人になった。きちんと勤めに出るようになり、暴れたりもしなくなった。お母さんも夜の仕事をやめ、弟や妹の世話に専念できるようになった。そして今はご両親とも、たくさんのお孫さんに囲まれて、楽しい老後生活を送っているという。

きつとしーちゃんは、自分の病気が治ることなんて、これっぽっちも望まなかつたのだ。家族が幸せになりますように——きつと、しーちゃんの最終的な願いは、白バイ警官でも早く大人になることでもなくて、その一事だったに違いない。

どんな願いも、自分が死んでしまったら大した意味もないだろうとも思うが、まあ、仕方がないだろう。

¹² しーちゃんは優しくって、バカだから。

(朱川 湊人『いっぺんさん』より)

※いっぺんさん……一度だけならどんな願いもかなえてくれる奇妙な神様。

※幹線道路……主要な地点を結ぶ大きな道路。

※嘔吐……吐くこと。

※看護婦……女性の看護師のこと。

※迅速……きわめて速いこと。

1 —— 1「父は初め、私と妹はキャンプ場に残るように言ったが、なぜか途中から気持ちを変えて、一緒に来るように言った」とありますが、それはなぜですか、最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 途中でしーちゃんに会える可能性が、十分にあったから。

イ いっぺんさんによる、白バイ警官の助けを期待したから。

ウ 母の絶叫によって父も動揺どうごうし、判断に迷ってしまったから。

エ 弟が最悪の事態をむかえることも、考えてしまったから。

2 —— 2「しーちゃん、ごめん！」とありますが、私はなぜ、しーちゃんに謝ったのか、最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア しーちゃんの時のように弟に何もしてやれない私が、しーちゃんからもらったいっぺんさんのことをすっかり忘れてしまっていたから。

イ しーちゃんの時のように弟に何もしてやれない私が、しーちゃんとの約束を破ってしまうことに何のためらいも持たなかったから。

ウ しーちゃんの時のように弟に何もしてやれない私が、しーちゃんではなく弟のために、いっぺんさんを使うことを思いついたから。

エ しーちゃんの時のように弟に何もしてやれない私が、しーちゃんとの思い出のいっぺんさんを白バイを呼ぶことに使うことにしたから。

3 —— 3「今までのお願いは取り消しますっ！」とありますが、どのようなお願いですか、本文から二十四字でぬき出し、初めの五字を答えなさい。

平成二十七年 度 帝塚山 中学校 一次 A 入学 試験 問題 ・ 国 語 (その八)

4 ――― 4 「ハンドルを握っていた父が、絶望的な声で叫んだ」とありますが、なぜ父は絶望的な声で叫んだのですか、最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 慣れない道で有効な抜け道も近道も、まったく知らなかったから。

イ 今のように便利なカーナビや携帯電話を父は持っていなかったから。

ウ 病院へ向かう市内の幹線道路がすさまじく混みあっていなかったから。

エ 夏休みの週末、しかも正午近くという時間がよくなかったから。

5 ――― 5 「知らず知らずのうちに」を言いかえたものとして、最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 偶然にも イ 思いがけず ウ しょうりもなく エ いつの間にか

6 ――― 6 「切迫」・―― 8 「人懐っこい」の語の意味として、最も適するものを、それぞれ次の中から選んで答えなさい。

6 「切迫」 ア すべての望みが断ち切られること。

ウ 追いつめられた状態になること。

イ 心が浮ついてしどろもどろになること。

エ 気が進まず落ち着かないこと。

8 「人懐っこい」

ア 人に昔を慕う思いを感じさせること。

イ 人にすぐなじんで親しみやすいこと。

ウ 人に好かれて、信頼されやすいこと。

エ 人に不思議な思いを感じさせること。

7 (a) (d) に入る語として、最も適するものを、それぞれ次の中から選んで答えなさい。

ア しぶしぶと イ ほとほと ウ 恐る恐る エ じっと

8 ――― 7 「ふと気づいて白バイ警官の方に向き直り、深々と頭を下げた」とありますが、それはなぜですか、最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 病院にたどり着くことができたという事態の進展を導いたのは、白バイ警官であり、深く感謝したから。

イ 弟の命を救うことができたのは、父の判断と白バイ警官の先導のおかげなので、深く感謝したから。

ウ 弟のけがに直面し、動揺している家族を力強く励ましたのは白バイ警官であり、深く感謝したから。

エ 弟のけがにかかわって協力してくれた多くの人々の代表として、白バイ警官に対し、深く感謝したから。

9

A

・

B

に入る体の部分を表す語を、それぞれ漢字一字で答えなさい。

10 ――― 9 「私は胸がいっぱいになるのを感じながら」とありますが、どのような気持ちになっていますか、最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア もう二度と会えないと思っていたしーちゃんが、思いがけず目の前に立っていることに興奮し胸が高まった気持ちになっている。

イ 弟の命がともかくも助けられたことを、しーちゃんの掌から実感したことで、興奮し胸が高まった気持ちになっている。

ウ いなくなったしーちゃんが大人になり、警官になる夢をかなえたことをさとして、興奮し胸が高まった気持ちになっている。

エ しーちゃんが警官になり、弟の命を助けるためにもどってきたことを知って、興奮し胸が高まった気持ちになっている。

11 ――― 10 「神様も粹なことをなさる」とありますが、どういうことが『粹なこと』のですか、五十五字以内で答えなさい。

12 ――― 11 「一番肝心な願い」とは何ですか、最も適するものを、次の中から選んで答えなさい。

ア 白バイ警官になること イ 病気が治ること

ウ 早く大人になること エ 家族が楽しい生活を送ること

平成二十七年 度 帝塚山 中学校 一次 A 入学 試験 問題 ・ 国 語 (その九)

13 ——— 12 「しーちゃんは優しくって、バカだから」とありますが、なぜそう言えるのですか。その理由を次の文章の空さんの条件に合うように本文からぬき出して答えなさい。

【 I 二十六字 】のに、何よりも 【 II 五字 】になることをしーちゃんは望んだから。

14 本文の内容について述べたものとして、正しいものには A、誤っているものには B と答えなさい。
ア 頭を打った弟の容態が悪く、父が車の窓から大声で何度もさげんだが、周囲の車は道を開けてはくれなかった。
イ しーちゃんは私の弟のために、白バイ警官としてたくさん車の端へと誘導すること、病院への道を作ってくれた。
ウ 父と私は病院の中に運び込まれていった弟に続こうとしたが、白バイ警官の存在に気づき、感謝の気持ちを示した。
エ しーちゃんは、三十年の時をこえて、白バイ警官という立派で頼もしい大人となって、私たちの前に現れた。
オ しーちゃんは結局病気が治らず、亡くなってしまったが、しーちゃんの最終的な願いはかなえられたと私は感じた。

三 次の 1 ～ 10 の ——— 部のカタカナを漢字に、11 ～ 15 の ——— 部の漢字をひらがなに直しなさい。

1 のどかな山間の町をカモツ列車が通り過ぎていった。
2 大統領のシュウニン演説は多くの民衆に感動をあたえた。
3 カエルにとって最もおそろしいテンテキはヘビである。
4 今まで心配をかけた親に対して心からコウコウをつくす。
5 夏休みに大切に水やりをしていた朝顔がようやくハツガした。
6 ヒーローが最後に悪者をやっつける場面を見てツウカイな気持ちになった。
7 買い物に行き、欲しい服があったけれどネフダをみて買うのをやめた。
8 日本国ケンポウは、昭和二十二年の五月三日に施行された。
9 指輪の内側には二人の名前がしっかりとコクインされていた。
10 彼は自分にあたえられたセキムを果たそうとがんばっている。
11 娘の誕生日パーティーのためにケーキを作ろうと腕を奮う。
12 三時間歩いてようやく山の中腹にたどりついた。
13 秋の運動会で額に汗をかいて、懸命に仲間の応援をする。
14 食事会でゆっくり時間をとれるように子どもだけの席を設ける。
15 昔の武将がこの土地に築城をした理由について調べる。

平成二十七年 度 帝塚山 中学校 一次 A 入 学 試 験 問 題 ・ 国 語 解 答 用 紙

受験番号

得点

受験番号
得点

[illegible][illegible]

3

4

5
6
7

8

A

B

9

10

12
I

[illegible]

13

14

ア

イ

ウ

エ

オ

1

Journal of Management Inquiry 22(3)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423	424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466	467	468	469	470	471	472	473	474	475	476	477	478	479	480	481	482	483	484	485	486	487	488	489	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499	500	501	502	503	504	505	506	507	508	509	510	511	512	513	514	515	516	517	518	519	520	521	522	523	524	5
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---

4. 
5. 
6. 
6. 
8. 

7

a



b



c



d



8 

9 **A**  **B** 

10 

[illegible]12[illegible]

II

14
ア
イ
ウ
エ
オ

1

2

3

4

5

6
ツ
ウ
カ
イ

7

	ネ フ タ
--	-------------

8

9

10

11

1213

14

15